

各府省庁との意見交換における論点について（森林技術総合研修所）

栃木県

◇研修及び宿泊で利用可能な施設の整備状況、宿泊に伴う受講者の費用の見込み

- 交通利便性や研修効果を考慮し、座学の主たる場として企業の研修施設の活用と、実習のフィールドとしての高原県有林・県民の森（矢板市・塩谷町）の利用を提案します。
- 交通費は、羽田空港を利用し新幹線を利用した場合は現施設と比較すると約5,000円の増
- 宿泊に伴う費用については施設の整備手法により異なってくるが、近隣地で食材の確保は可能であり、既存施設を活用した場合は現状から大幅な上昇はないものとする。

移転により新たな価値を創出するための取組（現地実習プログラム等）の具体イメージ

現在研修所において実施されているほぼ全ての研修内容が本県で対応可能と考えており、研修内容の向上として以下の内容を想定している。

○施設周辺には、広大な面積（約1,600ha）、豊富な林齢及び多様な林相を有する高原県有林があり、現地研修の実施が可能である。

●森林・林業

- 研修先に最適な、全国クラスの大規模工場（製材、プレカット等）が存在する。特に矢板地区周辺にあることから、移動時間が節約でき、講義時間が長くとれる。
- H26の現地研修と比較すると、これまでなかった製材工場における研修が対応可能となる。
- 矢板地区周辺というコンパクトな範囲で、カスケード利用の実務が学べる。
例) 伐採現場 → 原木市場 → 製材工場 → 集成材工場 → バイオマス発電所
- 木造建築物の視察先として、材料調達から建築まで地元と密接な関わりのもと施工されている中学校、小学校があげられる。材工分離発注の方法や天然乾燥による無垢材の長尺丸太の活用など、先進事例として学ぶことができる。

●森林土木

- 当地域は林道路網密度が高く、林業専用道の開設も多く、また、治山施設も多く整備されているため、林道、治山の研修や現場視察にも適している。
- また県有林は高原山麓に位置し、適度な傾斜であることから、伐採研修や作業道作設研修に適している。

●森林整備・森林保全

- 県有林は木材関係だけでなく、県民の森として遊歩道等各種施設が充実しており、生物多様性等の研修にも有効に活用できる。
- 本県は特用林産物の生産が盛んであり、特にきのこ栽培においては、品質について首都圏でも高評価を得ており、先進的な生産者、種菌メーカーも存在するなど、研修地として最適な環境である。
- 本県林業センターは、しいたけ原木用非破壊検査機器、実大材強度試験器などの全国的にも有数の試験研究機器を有しており、連携することにより、効果の高い研修を行うことができる。

受講者や講師の交通利便性を確保する方策

●研修所及び研修フィールドへのアクセス

○栃木県・矢板市・塩谷町としては、林業センターが有するバスの利用など、可能な限りの条件確保に向け積極的に支援する考えである。

○計画中の矢板北スマート IC が供用開始となれば、高原県有林・県民の森まで 9.5km、15 分となる。

○森林総合研究所には矢板市内から 2 時間程度、林木育種センターには 2 時間 10 分程度、林業機械化センターにも 2 時間 10 分程度で移動が可能であり、日帰りでの連携した研修も可能である。

●見学地へのアクセス

○矢板市からは、東北自動車道から北関東自動車道を活用することにより、常磐、関越、圏央道、中央、東名などの各高速道路へのアクセスが良好。高尾と同様の見学地の幅広い選定等が容易である。

○北関東自動車道や圏央道を活用することにより、東京都、群馬県、茨城県はもとより、東京の渋滞に影響されることなく、長野県や山梨県を訪問することが可能である。

省庁見解に対する栃木県の考え

省庁の見解	栃木県の考え										
<p>【東京圏になければならないか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修所は、林業に関わる行政職員等の育成を目的としていることから、東京圏外であっても機能が確保される可能性を全く否定するものではないが、研修の質を落とさず適確に実施するためには、研修生の利便性や講師の確保をはじめとする諸条件を整える必要がある。 <p>(研修の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地実習がないコースが約4割 ・現地実習を行うコースの座学が約4割 ・現地見学・実習が約2割 	<p>○交通利便性や研修効果を考慮し、座学の主たる場として企業の研修施設の活用と、実習のフィールドとしての高原県有林・県民の森（矢板市・塩谷町）の利用を提案します。</p> <p><参考></p> <p>○高原県有林・県民の森内の建設可能地</p> <p>①「体験の森」内</p> <table border="0"> <tr> <td>森の文化エリア</td> <td>約17,600㎡</td> </tr> <tr> <td>メモリアルエリア</td> <td>約12,500㎡</td> </tr> <tr> <td>ビオトープエリア</td> <td>約13,000㎡</td> </tr> <tr> <td>自然回復地エリア</td> <td>約14,000㎡</td> </tr> <tr> <td>自然林活用エリア</td> <td>約7,000㎡</td> </tr> </table> <p>②林業指導所跡地 約6,000㎡</p> <p>③少年自然の家跡地 約5,000㎡</p> <p>○高原県有林・県民の森内のフィールド状況</p>	森の文化エリア	約17,600㎡	メモリアルエリア	約12,500㎡	ビオトープエリア	約13,000㎡	自然回復地エリア	約14,000㎡	自然林活用エリア	約7,000㎡
森の文化エリア	約17,600㎡										
メモリアルエリア	約12,500㎡										
ビオトープエリア	約13,000㎡										
自然回復地エリア	約14,000㎡										
自然林活用エリア	約7,000㎡										
<p>【成果の確保・向上、行政運営の効率の確保】</p> <p>(研修講師の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修講師の約7割は首都圏在住者で占められている。 ・研修講師の約3割は、最新の制度や技術を講義する本省職員。 ・移転にあたっては、講師の確保等の面からの対応方針が示される必要がある。 	<p>○講師の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、宇都宮大学の教授や栃木県職員等が講師の一部を務めており、さらなる講師の対応が可能である。 ・本県にある宇都宮大学は、森林と林業、林産業について実践的な専門家を養成している大学である。多様な教授陣を有していることから、十分確保できると考えている。 										

省庁の見解	栃木県の考え
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京から矢板駅まで1.5時間であり、十分に日帰りが可能である。これまでも、本県開催の講座・研修等に東京方面から来られている方も多い。
<p>(行政運営の効率確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高尾にある場合、国会対応や災害対応など予定外の業務により本庁講師の変更の必要が発生した場合も対応が容易である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京から矢板駅まで1.5時間であり、十分に日帰りが可能である。 ○ 新幹線の定時運行率は約95%と高く、新幹線の利用と自動車による送迎を組み合わせると、ほぼ2時間以内に矢板駅までの対応が可能である。
<p>(遠距離移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木県矢板市は東北、北関東へのアクセスは良いが、中部、東海地方へのアクセスは高尾よりも悪くなり、全体的なアクセスのバランスが現状より向上するとは考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京は日本の要衝であり、現状より全体が向上することは厳しいが、高尾駅と矢板駅までを比較すると、沖縄や鹿児島からでも40分程度の増でそれほど支障はない。逆に、仙台からは1時間20分の短縮になるなど、林業の盛んな東北圏はメリットが大きい。
<p>(研修講師への交通費、宿泊費の支出増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1コマ75分の講義のために長時間の拘束が必要となると、講師の確保が難しくなり、研修の質が低下する恐れがある。 ・ 今回要望のあった場所については、朝の1限目講師は新幹線の利用が必要となるなど研修予算の大幅な増大が必要となり、行政運営の効率の確保に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京から矢板駅まで1.5時間と、十分に日帰りが可能であり、拘束時間は高尾の場合と大きく変化はない。 ○ 通勤混雑の中に巻き込まれることが少なく、講師の負担軽減が図れる部分もあると思慮される。

省庁の見解	栃木県の考え
<p>(本所と林野庁の研修打合せ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本所の研修担当者は、研修内容や講師等について、林野庁担当部署と通常1研修あたり3回程度対面打合せを行うこととしており、本庁への出張コストやアクセス時間が増大することは、研修予算の増大につながることから、行政運営の効率の確保に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○メールや多量のデータ送信、動画送信等が可能となるなど、情報化の進んだ現状において、ICTの効果的な活用により、効率的な打合せは十分に可能である。
<p>(政策や国会への対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修講師となる林野庁職員にとって、国会等への対応の柔軟性が低下し支障が生じると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時運行率の高い新幹線を活用できることから、十分柔軟性の高い対応が取り得ると思慮される。
<p>(効果的な研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクトなエリア内での効率的な現地見学が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設周辺には、広大な面積(約1,600ha)、豊富な林齢及び多様な林相を有する高原県有林があり、現地研修の実施が可能である。 ○地元の森林組合は、全国でも数少ない実践体制基礎評価の認定を受けるなど模範的な組合であり、研修や講師への活用が期待できる。 ○当地域は林道路網密度が高く、林業専用道の開設も多く、また、治山施設も多く整備されているため、林道、治山の研修や現場視察にも適している。 ○従来の森林技術研修は、国及び都道府県職員の研修が主であるが、高原県有林内で実施している林業担い手を対象とした研修と連携することができ、更なる林業技術の向上や、担い手の確保、育成が図

省庁の見解	栃木県の考え
	<p>られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県有林は高原山麓に位置し、適度な傾斜であることから、伐採研修や作業道作設研修に適している。 ○ 県有林は木材関係だけでなく、県民の森として遊歩道等各種施設が充実しており、生物多様性等の研修にも有効に活用できる。 ○ 研修先に最適な、全国クラスの大型工場（製材、プレカット等）が存在する。 特に矢板地区周辺にあることから、移動時間が節約でき、講義時間が長くとれる。 ○ H26の現地研修と比較すると、これまでなかった製材工場における研修が対応可能となる。 ○ 矢板地区周辺というコンパクトな範囲で、カスケード利用の実務が学べる。 例：伐採現場→原木市場→製材工場→集成材工場→バイオマス発電所 ○ 現在実施されているほぼ全ての研修内容が本県で対応できる。 ○ 木造建築物の視察先として、材料調達から建築まで地元と密接な関わりのもと施工された中学校、小学校があげられる。 材工分離発注の方法や天然乾燥による無垢材の長尺丸太の活用など、先進事例として学ぶことができる。 ○ 本県は特用林産物の生産が盛んであり、特にきのこ栽培は、品質について首都圏でも高評価を得ており、先進的な生産者、種菌メーカーも存在するなど、研修地として最適な環境である。 ○ 本県林業センターは、しいたけ原木用非破壊検査機器、実大材強度試験器などの

省庁の見解	栃木県の考え
	<p>全国的にも有数の試験研究機器を有しており、連携することにより、効果の高い研修を行うことができる。</p>
<p>【地域への波及効果・なぜその地域か】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林技術総合研修所は、都道府県や国の職員の人材育成を目的としていることから、地域への知識や技術の普及は想定しておらず、要望の波及効果は期待できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県及び矢板市・塩谷町は積極的に支援し関わりを持たせていただくつもりであり、施設設置による地域への経済的効果や、研修生として来県する自治体職員等との交流を通じての波及効果が大きいと期待できる。 ○ 森林組合および木材製造業の分野において先進的な研修を受講できる機会が増加するため、技術力が飛躍的に向上する。 ○ 当地域は全国的にも有数な木材生産基地であることから来県した研修生との交流によりビジネスマッチングが生まれる可能性が高い。 ○ 研修所職員、家族の転入による人の流れにより、地域への経費等の流れ及び活性化が図られる。 ○ 研修生、講師等が全国的にも有数な木材生産地である当地域に来ることにより、情報交換、交流を通じて、お互いに更なるレベルアップが図られる。 ○ 施設の食堂等での就労機会がある。 ○ 食堂で地元の食材供給が可能である。 ○ シーツ等の洗濯および施設清掃等の業務委託が受けられる。
<p>(なぜ、高尾で研修を実施しているか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高尾の研修所の周辺（大部分が半径5km圏内）に、明治の森高尾国定公園、高尾山自然休養林、都立自 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提案地区には、大規模製材業が集積し、高い乾燥技術や処理能力等で他地区をリードしている。

省庁の見解	栃木県の考え
<p>然公園のほか施業中の森林や高密度路網設定森林があり、暖温帯系と冷温体系の多様な樹種からなる天然林及びスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツといった主要造林樹種による人工林（1年生から100年生まで多齢級のもの）、国有林及び民有林が分布し、生物多様性保全、保健レクリエーション、木材生産等の多面的機能をバランス良く網羅する「日本の森林の縮図」となる森林が存在しており、全国からの研修生の業務内容に対応でき、教室での座学、現地での実習が効率よく行うことが出来ている。（こうした森林の確保が同様に可能であることが必要条件）</p>	<p>本県林業センターは業界や大学等と連携した研究で木材業を支援してきたが、研修所が当地区へ移転の際には、これまで以上に、民・学・国（研修所）・県（林業センター）が、連携した高いレベルでの技術交換などの場を提供できる。</p> <p>○広大な面積（約1,600ha）を有する高原県有林は、豊富な林齢及び多様な林相を有しており、効率的・効果的な現地研修の実施が可能である。</p> <p>※樹種：スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ等の主要造林樹種による人工林のほか、以下のような天然広葉樹が存在。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標高300～400m付近 コナラ、ケヤキ、クヌギなど ・ 標高500～700m付近（県民の森周辺） ヤマザクラ、ツツジ、ミズナラ、イタヤカエデ、ヒナウチワカエデなど ・ 標高700～1,000m付近 ブナ、ミズナラなど
<p>【条件整備】 （利便性等の確保）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修施設、講師の確保、旅費、現地研修用森林等について、現在の状況を下回らない条件確保が必要である。 ・ 新たに研修棟、研修生宿泊棟、事務室などを建築するとした場合の施設整備のコストの確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的なコストの確保については、政府機関の移転推進を担当される内閣府において調整を図られたい。 ○ 栃木県・矢板市・塩谷町としては、林業センターが有するバスの利用など、可能な限りの条件確保に向け、積極的に支援する考えである。 ○ 施設敷地（県有地内）の無償貸与 ○ 計画中の矢板北スマートICが供用開始となれば、高原県有林・県民の森まで9.5km 15分となる。積極的に整備を推進する。

省庁の見解	栃木県の考え
	<p>○民間企業研修施設の利用に向け、積極的な調整を行う。</p>
<p>(研修生派遣元の都道府県、市町村、林業事業体等の負担経費)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣元→(航空機)→羽田空港→(在来線)→高尾等の往復交通費・食費 1日1,930円(朝食460円、昼食620円、夕食850円)・共益費 1回1,000円(夏期)、1,500円(冬期) 	<p>○交通費は、羽田空港を利用し、新幹線を利用した場合約5,000円の増。</p> <p>○宿泊に伴う費用については施設の整備手法により異なってくるが、近隣地で食材の確保は可能であり、既存施設を活用した場合は現状から大幅な上昇はないものと考ええる。</p>
<p>(霞ヶ関への年間打合せ状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のべ131回、片道525円68分(平成26年度) 	<p>○ICTの効果的な活用により、効率的な打合せは十分に可能である。</p>
<p>(研修内容の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修計画の作成及び実施にあたり、県の積極的な協力体制の確保が必要 	<p>○一部の研修については、本県林業センターの研修施設である「21世紀林業創造の森」の研修施設・機械を利用し実施することが可能であり、林業機械化センターの負担を軽減することができる。それによりさらなる高度な研修が、林業機械化センターにおいて可能になる。</p> <p>○きのこの放射性物質関係や鳥獣被害関係の研究・事業では、先進地域であるので、研修課題とすることができる。</p>
<p>(研修生の利便性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地から研修生が集まる観点から、利便性が確保されることが重要であり、全国の都道府県庁所在地から、高尾の研修所までの所要時間は、平均3時間38分。例えば 	<p>○高尾駅と矢板駅までを比較すると、北海道や沖縄、鹿児島からでも40分程度の増であるが、仙台からは1時間20分の短縮となり、東北新幹線を利用できる林業の盛んな東北圏は特にメリットが大きい。</p>

省庁の見解	栃木県の考え
<p>札幌、鹿児島から約4時間40分。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修生の研修参加費用や移動時間を考慮する必要（今回要望のあった場所は、羽田から新幹線利用でも2時間かかり高尾に比してコストやアクセス時間で過度の負担がかからないか）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修生は、ほとんどが前日入所をすると想定されることから、時間には余裕を持って来ると思われる。 新幹線と在来線の双方が高い密度で走行する本県は、コストとアクセス時間を比較考量し、交通手段を選べることから、研修生に対する過度の負担は生じない。 ○車での来所を希望する人にとっては、東北自動車道から北関東自動車道を活用することにより、常磐、関越、圏央道、中央、東名などの各高速道路へのアクセスが良好。
<p>（本所と林業機械化センターの連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本所と林業機械化センターは、研修の打合せ、職員の安全指導や入札などを本所と連携しながら行っていることから、移転により遠隔地に行った場合に本所と林業機械化センターの連携が困難となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○森林総合研究所には矢板市内から2時間程度、林木育種センターには2時間10分程度、林業機械化センターにも2時間10分程度で移動が可能であり、日帰りでの連携した研修も可能である。 ○林業機械化センターは、北関東自動車道の利用により、現在地よりも短時間での移動が可能となる。
<p>（耐震工事が最近完了）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎については、平成25年度に総工費約2億円をかけて耐震工事が完了したところであり、今後長期間にわたって活用しない場合、国費の無駄使いと指摘される恐れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○移転後の施設については、国において有効な利用法を検討されたい。
<p>（現地見学地へのアクセス）</p> <ul style="list-style-type: none"> 高尾は、東北、常磐、関越、中央、東名の各高速道路へのアクセスが 	<ul style="list-style-type: none"> ○矢板市からは、東北自動車道から北関東自動車道を活用することにより、常磐、

省庁の見解	栃木県の考え
<p>良好であることから、見学地の幅広い選定等が容易。平成26年度は、本所で実施した34コースで36回優良事例等見学を実施（周辺5km圏内程度の裏山での見学、実習を除く）。そのうち訪問先上位3件は、群馬（11）、山梨（9）、東京（5）。一方、平成3年度は本所で実施した13コースでの10回の見学のうち上位3件は、東京（6）、栃木（3）、茨城、山梨（1）となっている。</p>	<p>関越、圏央道、中央、東名などの各高速道路へのアクセスが良好。 高尾と同様の見学地の幅広い選定等が容易である。</p> <p>○北関東自動車道や圏央道を活用することにより、東京都、群馬県、茨城県はもとより、東京の渋滞に影響されることなく、長野県や山梨県を訪問することが可能である。</p>

「現地の森林の状況」

○誘致先の拠点の半径5km圏内に、どのような現地実習森林があるのか記入してください。

(矢板市内が研修拠点施設となる場合、半径5km圏内に高原県有林は含まれなくなります
が、高原県有林を拠点として記載しました)

①国立公園又は国定公園

高原県有林の北部及び東部が日光国立公園に指定

②自然休養林

高原県有林の北部で接する国有林が、八方自然休養林に指定

③県立自然公園

なし

④保護林

高原県有林の北部に「高原山天然イモミ」、「尚仁沢ブナ・イブナ」の指定地がある

⑤施業中の森林

単層林施業(スギ、ヒノキ)、複層林施業(38ha)、間伐を中心に実施している

⑥高密路網森林

高原県有林内全域

⑦暖温帯系の天然林、⑧冷温体系の天然林

天然林 376ha、ナラ・クリ・モミ・シイ・カシ・コナラ・ミズナラ・ブナ等

⑨スギ人工林

406ha、11~80年生以上の多齡級林分が生育

⑩ヒノキ人工林

527ha、1~80年生以上の多齡級林分が生育

⑪アカマツ人工林

27ha、40~80年生以上を中心に生育

⑫カラマツ人工林

121ha、40~80年生以上多齡級林分が生育

⑬国有林、民有林

主に、高原山の中腹から下部は民有林、山頂にかけての上部が国有林になっている

⑭その他

高原県有林北部の国有林：緑の回廊(5. 日光・那須塩原)に指定

県民の森：森林浴の森 100選

高原県有林内の尚仁沢：名水 100選(環境省)

高原山水源の森 100選(林野庁)

高原山県有林：生活環境保全林 100選(林野庁)

「現地見学地へのアクセス」

① 森林見学

- (1) 日光市戦場ヶ原（湖沼から森林への遷移）
- (2) 高原県有林内の県民の森（多種多様な森林、生物多様性：遊歩道網羅）

② 林業見学

県内いずれも優良林業地であり、たかはら地区、八溝地区、日光地区は半日で、他県内全域日帰りで見学可能。

③ 木材産業見学

国産材において、関東甲信越随一の素材生産及び製品生産量を誇る木材県であり、原木丸太の高い品質と高度な加工技術を反映し、主に建築用材として利用されるなど、製品としても高い評価を得、大規模量産型の製材工場が集中的に立地する全国有数のスギ・ヒノキ乾燥材生産拠点である。特に矢板市周辺には、原木1万m³/年以上使用している工場が6工場ある。また、県内には、集成材工場やプレカット工場、バイオマス発電施設もあり、これまでの研修内容と同等（以上）の研修プログラムが行える。

○那珂川町におけるバイオマス利用の取組 栃木県那珂郡那珂川町（約40分）

廃校になった中学校跡地に製材工場、木質バイオマス発電所が完成し、製材端材等を木材乾燥やバイオマス発電用の燃料として利用し、さらにその廃熱を有効利用して、間伐材の木骨ハウスでマンゴー栽培や旧校舎内でのウナギの養殖を行っている。

④ その他（木造建築物等）

(1) 栗野小学校 栃木県鹿沼市（約1時間）

校舎（木造一部鉄骨2階建て）、屋内運動場（木造平屋建て）木材使用量1,168m³。「地材地建」を基本コンセプトとし、栗野財産区のスギ・ヒノキを使用。材工分離発注。

(2) 茂木中学校 栃木県芳賀郡茂木町（約1時間15分）

校舎（木造一部RC造2階建て）他付属棟含め延べ面積6,387m²
木材使用量1,580m³ 町有林を活用した町の歴史と町民の心に残る学び舎。無垢材・長尺丸太にこだわり建築。約29haから上層間伐により木材を確保。材工分離発注。

(3) 木工

- ・ 寄木、組子等（鹿沼市）

(4) 治山事業（足尾町、日光市）

(5) 特用林産物

- ・ わさび（日光市）
- ・ シイタケ（矢板市、那珂川町など県内各地） ほか

「現地実習森林へのアクセス」

○現地実習森林へのアクセス等について、どのような状況にあるかの教えてください。

- ① 高原県有林（県民の森管理事務所等）までの主要道路を使用する場合は、大型バスも通年乗り入れ可能。
林業地に行く場合は、中型バスで乗り入れ可能。一部冬季困難。
- ② 林道のほとんどが舗装されており、林道等に不慣れな運転手でも乗入れ可能。
- ③ 高原県有林は一般の方の利用も多いことから、道路の維持管理は必須事項であり、舗装道路については支障がないよう整備している。県有地のため基本的に県が維持管理を行う。
- ④ 矢板市内には総合病院等があり、病院までは県民の森から約20分。県民の森管理事務所を活用することで早い対応ができる。

栃木県林業センター講演・視察受入等実績

(別添3)

年度	部門	種別	内容	相手先等
H25	特産	視察受入	きのこ原木放射能低減技術 (先進県取組状況視察)	埼玉県農林総合研究センター
H25	特産	意見交換 会メンバー	放射性物質を低減する原木きのこ栽培	メンバー: 林野庁、日特振、岩手県
H25	特産	視察受入	露地栽培きのこ類における放射性セシウムの 動態解明	茨城県林業技術センター
H25	特産	講師	里山を活用したきのこ研究のための基礎知識	長野県林業試験場
H25	鳥獣	コーディネーター	鳥獣管理技術研修会	鳥獣管理技術協会
H25	鳥獣	講師	野生鳥獣被害対策のつどい	日光市・猟友会日光支部
H26	特産	検討会委員	野生きのこの出荷解除に向けた調査方法検討会	メンバー: 林野庁、森林総研、日特振ほか 都道府県では山梨県他3県のみ
H26	特産	視察受入	竹林の放射性物質低減の栽培方法 (竹林除染実証試験の先進県取組状況視察)	岩手県農林振興センター
H26	特産	講演	栃木県の原木シイタケ生産と放射能問題	東京林業研究会
H26	特産	講師	しいたけ生産者研修会	長野県特用林産協会
H26	特産	視察受入	放射性物質対策研究情報収集	岩手県林業技術センター
H26	特産	視察受入	放射性物質対策研究情報収集	茨城県林業技術センター
H26	特産	視察受入	きのこ研究施設ほか	長野県林業総合センター
H26	鳥獣	パネラー	鳥獣管理技術研修会	鳥獣管理技術協会
H26	鳥獣	視察受入	ニホンジカ被害対策 (シカ被害対策先進県取組状況視察)	中央農業総合研究センター (韓国研究代表者)
H26	鳥獣	検討委員	鳥獣被害対策技術高度化実証事業	野生動物保護管理事務所
H26	鳥獣	パネラー	鳥獣管理フォーラム	鳥獣管理技術協会
H26	鳥獣	講演	これからの野生動物管理	特定非営利活動法人WSJ 岐阜大学応用生物科学部
H26	鳥獣	講演	東北野生動物管理研究交流会	山形大学
H26	鳥獣	講演	ニホンジカ被害対策講演会	関東森林管理局
H27	特産	講師	全国食用きのこ種菌協会研修会	全国食用種菌協会
H27	特産	講師	東日本大震災支援市民公開フォーラム	日本きのこ学会
H27	特産	講演	きのこ学会フォーラム	日本きのこ学会
H27	鳥獣	検討委員	鳥獣被害対策技術高度化実証事業	野生動物保護管理事務所
H27	鳥獣	講師	鳥獣被害対策コーディネーター等育成研修事業	野生動物保護管理事務所
H27	鳥獣	講師	中山間地域の野生動物管理の現場見学	東京農工大学農学部
H27	鳥獣	講師	生物多様性普及啓発講座	とちぎ環境・みどり推進機構